

育成を目指す
資質・能力



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○単元や題材などの内容や時間のまとまりを通して
↓
1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではない

- ・学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか。
- ・グループなどで対話する場面をどこに設定するか。
- ・児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。などを考える。

※基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ること

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になる

「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすること

【 社会科 】

「社会的な見方・考え方」は、社会科、地理歴史科、公民科において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」である

「社会的な見方・考え方を働かせ」ることは、視点や方法(考え方)を用いて、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすること

←これらの学びは、思考力、判断力を育成することはもとより、知識と知識を関連付けて深く理解すること、主体的に学習に取り組む態度にも作用することが考えられるため、資質・能力全体に関わるもの

社会的な見方・考え方

現代社会の見方・考え方（公民的分野）

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて

社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野）

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて

社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野）

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりして

社会的事象の見方・考え方（小学校）

社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして